

日本家族看護学会 国際交流委員報告

—Small Groupの活動について—

2022,2023年度委員会メンバー（2022年7月～2024年6月）：本田順子（委員長）、相墨生恵 島田なつき 中口尚始 新家一輝 森崎真由美 山口智治
2024,2025年度委員会メンバー（2024年7月～2026年6月）：本田順子（委員長）、池田真理 今井美佳 島田なつき 築田誠 新家一輝 福井美苗

国際交流委員では2023年度より、学会員のネットワーキングと国際活動推進を目指し、小グループで研究・英語での発表・論文執筆に向けた活動を行う、Small Group活動のサポートを継続してきました。第1期（2022年度）、第2期（2023年度）のSmall Group活動について、以下の通りご報告いたします。

▼Small group活動の進め方

4～9月頃
メンバー募集

9月～年度末頃
委員のサポートを受けながらグループ毎に活動

年度末～翌年度
英語での成果発表
第1期：翌年度6月IFNC
第2期：2月IFNA合同イベント

第1期（2022年度）

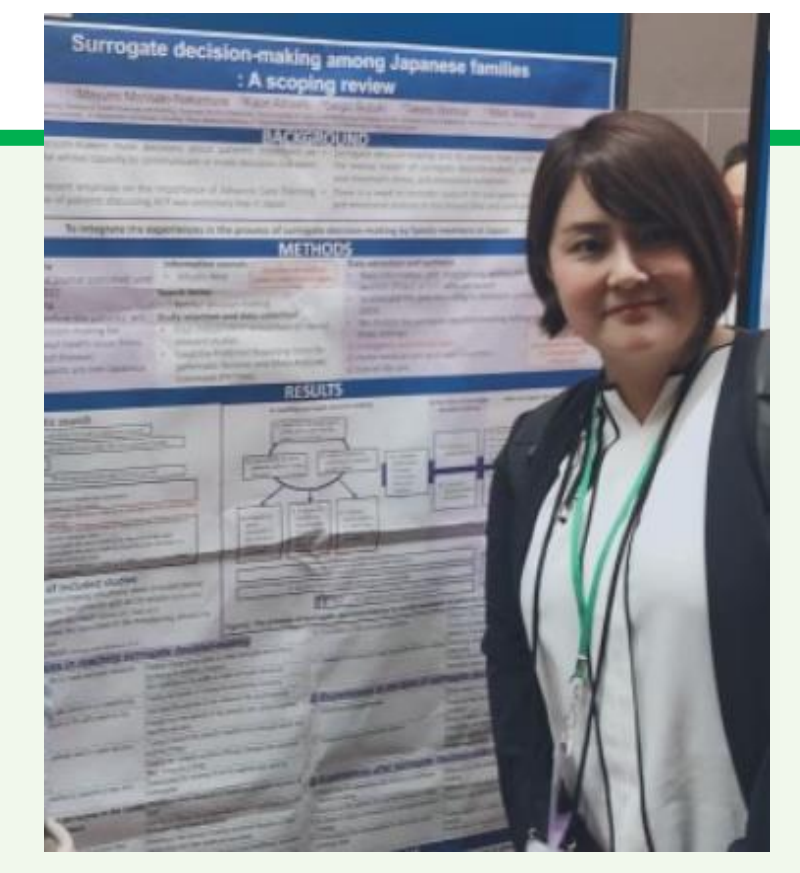
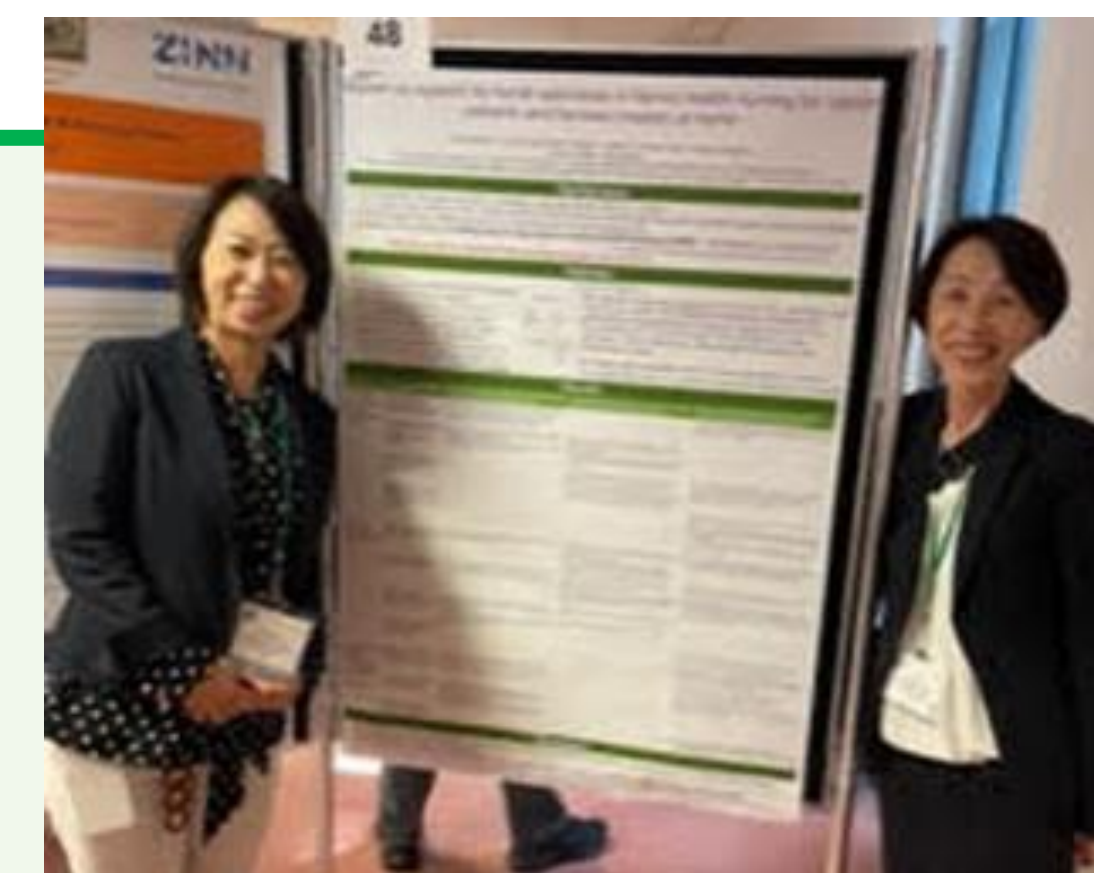
- ◆活動時期：2022年5月～2023年3月
- ◆活動人数：14人（3グループ）
- ◆内訳：教員10名、研究員2名、保健師1名、看護実践者2名（うち家族支援CNS2名）
- ◆成果発表：各3グループが、それぞれIFNC16においてポスター発表を行った

▼各グループでのここまでの取り組みとその内容

グループ① Report on support by nurse specialists in family health nursing for cancer patients and families treated at home

メンバー：川上千春、浅岡裕子、吉田めぐみ、加藤智子、和辻雄仁、本田順子、池田真理

取り組み：家族支援専門看護師（FCNS）による家族看護実践の見える化を目指し、「ケアの意味を見つめる事例研究」（山本、2019）の手法を用いて事例研究に取り組んでいます。FCNS、研究・教育者、実践者と専門性が異なるメンバーが集まり、Zoomを用いて1～2回/月、実践の素晴らしさにワクワクしながら和気あいあいとミーティングを継続しています。IFNA16では、在宅高齢者家族の事例を発表しましたが、発表後もブラッシュアップを重ね、現在論文作成の準備を進めています。同時進行で今年度は、母子領域の事例分析を開始しました。「この事例もIFNA17で発表しよう！」と新たな目標に向かって歩み続けています。



グループ② Assessing and addressing parents-children family functioning in Japan: A scoping review

メンバー：大城怜、藤田紋佳、三里久美子、中嶋祥平

取り組み：日本における家族機能について検討した研究がどのような方法で解析、記述されるのかを明らかにするため、スコーピングレビューを行いました。ZoomやSlackを用い、適宜ミーティングしながら、家族看護の研究を行う上で、家族機能という切り口で、研究方法や日本の家族機能を発信するための方法を検討しました。現在、国際誌への投稿向け準備を進めております。

グループ③ Surrogate decision-making among Japanese families: A scoping review

メンバー：相星香、鈴木征吾、森崎真由美、和辻雄仁

取り組み：家族介護者の代理意思決定に関する経験についてのスコーピングレビューを行いました。Zoomを用いて、2週間～1か月に1回程度のMTGを行いながら活動を進めました。小児・成人・在宅ケアなど様々な専門領域のメンバーが集まってディスカッションを重ねることによって、知識や視野を広げることができました。また、IFNC16での英語のポスター発表、論文執筆を協力して進めることで、国際学会や英語に対するハードルが下がり、少し自信がついたように思います。現在はメンバーで分担しながら英語での論文執筆を進め、英文誌への投稿を目指しています。

第2期（2023年度）

- ◆活動時期：2023年5月～2024年3月
- ◆活動人数：16人（3グループ）
- ◆内訳：教員11名、心理士1名、看護実践者4名（うち家族支援CNS4名、小児看護CNS1名）
- ◆成果発表：IFNAオーストラリア・ニュージーランド支部との合同セミナー（オンライン）において、各3グループがそれぞれ、研究成果について英語でのプレゼンテーション・ディスカッションを行った

▼各グループでのここまでの取り組みとその内容

グループ① Current family care provided by nurses in Japan under COVID-19 pandemic: A literature review

メンバー：池田麻左子、佐藤律子、渡邊さやか

取り組み：COVID-19感染拡大下における家族ケアの現状について文献検討を行いました。MTGはオンライン（主にZOOM）を用い、1か月に1回を目途に開始、終盤は1-2週間に1度のペースで検討をしました。メンバーの経験や得意分野を考慮した意見交換によって、対象文献の絞り込みや結果のまとめ方、考察の視点など綿密な計画立案と実施ができ、専門性を活かし取り組みにつながりました。また海外メンバーとの英語発表においては、委員会メンバーの助言および指導のもと、貴重な体験する機会になりました。関連学会での発表に引き続き、論文執筆に向けた準備を進めていきます。

グループ② Title Current Status of Nursing Care for Families of Foreign Residents with Health Problems in Japan: A Literature Review

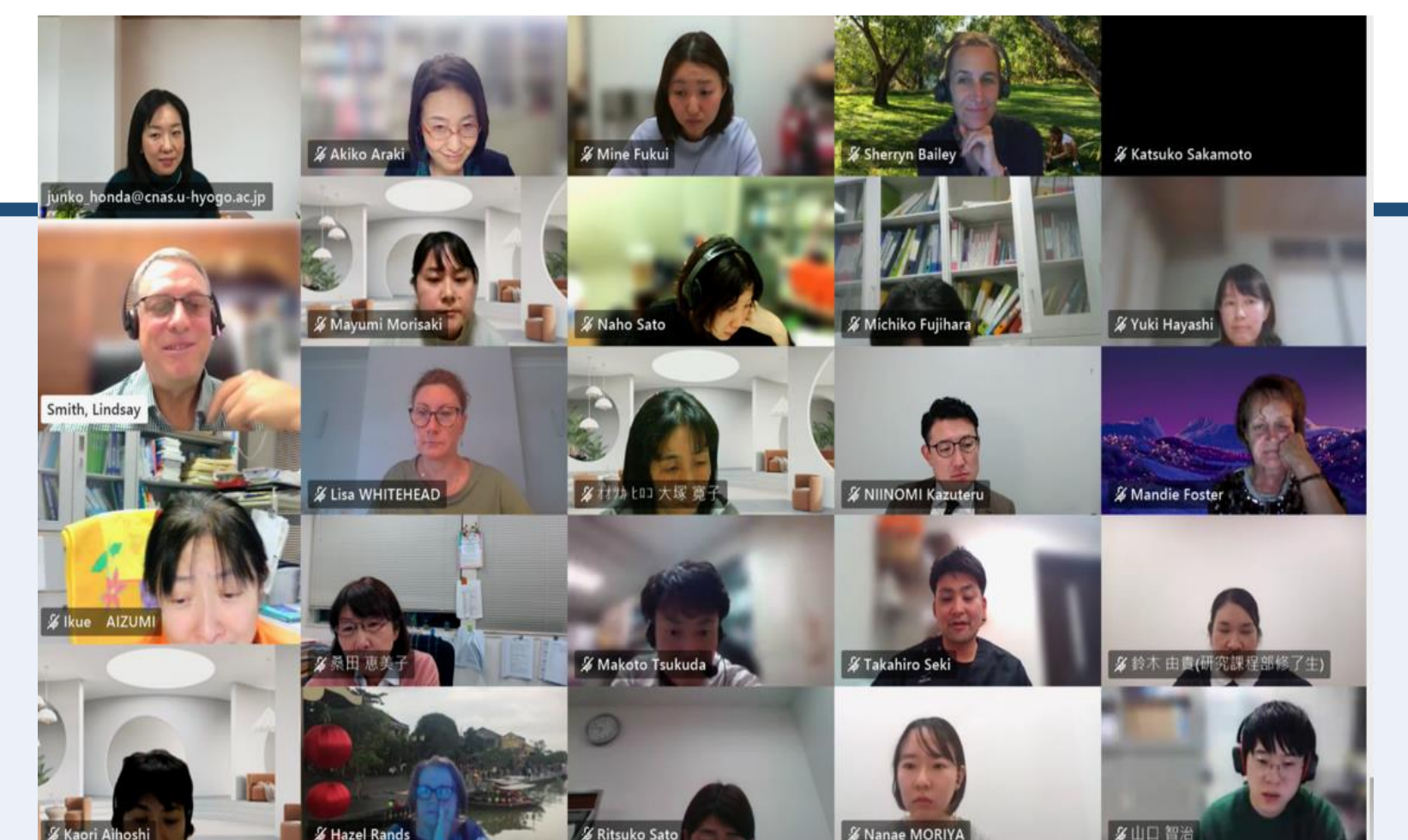
メンバー：相墨生恵、佐藤奈保、鈴木由貴、関隆裕、中口尚始、林由紀、山口未久

取り組み：日本で医療機関を受診する外国人家族が増加していることを受け、「健康問題を有する外国人を含む家族に対する看護の動向」というテーマで国内文献のレビューを行いました。結果から、日本の看護師は、異なる言語や文化に対し配慮するとともに、対象が外国人家族であっても試行錯誤の上、家族看護を実践していることが分かりました。活動期間終了後も、メンバー全員での国際学会発表を目指し、英語の演題作成に取り組んでいます。今回の活動を通して、日本の看護実践を国外に伝える必要性も共有できました。また職場や職位を超えて、忌憚なく意見交換ができる仲間に出会えたことも大きな財産になりました。

グループ③ Nursing practice process for parents to promote bonding and acceptance for newborns with chromosomal abnormalities: A case study

メンバー：福井美苗、渡邊さやか、大塚寛子、野島敬祐、築田誠、森谷菜々絵、山口智治

取り組み：染色体異常のあるお子さんがいる家族の愛着形成と受容を促進する看護実践について、「ケアの意味を見つめる事例研究」（山本、2019）の手法を用いて分析しています。メンバーは臨床家・心理士・教員で構成しており、2週間に1回程度Zoomで活動をしています。IFNC17で日本の家族の特徴や事例の家族看護実践の意図や技を海外に伝えることが目標です！



▼スモールグループの取り組み全体に対する成果と今後の課題

2期にわたり、日本の看護を世界に発信するという目標とし、small groupを支援してきました。IFNCへの参加や海外の研究者や実践者との交流の機会をもつことができました。参加者からは、国際交流について、「より現実的に考えるようになった」「グローバルな視野で看護を考え、それを発信できる活動の場が身近にあると感」という感想や、「独力では気づかない多角的な視点が得られた」「初対面の方々との交流の中で、自分の不得意な部分に挑戦できると感じた」との意見があり、この活動を通して新しい仲間との出会いが刺激になったようです。臨床で働きながら活動される方も多いので、より柔軟なチーム活動ができるよう支援したいと考えています。

今年度も第3期small groupを募集いたします！ぜひ、ご参加ください。申し込みはこちらから ➡



※9月30日